

○今城副議長 次に、三木議員。

〔三木議員質問席へ〕

○三木議員 会派緑風会の三木三枝です。まず初めに、一言御挨拶を申し上げます。私は、13年前に新規就農し、今日まで米子市民の皆様をはじめ、米子市役所、JA、県の普及所や担い手育成機構、近隣自治体の皆様などなど、本当に本当に多くの皆様から温かい御支援と御指導をいただきながら農業を続けてまいりました。そのような私が、このたび、たくさんの市民の皆様から応援をいただき、米子市議会初の参政党の議員として初めて一般質問に立たせていただきます。これまで御支援いただいた全ての皆様に、この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

さて、今回、私の質問は、米子市の農業の価値と今後の農業政策についてです。

なぜこの質問にしたかといいますと、私自身、農業しているからということもありますが、地域に御挨拶に伺った際、本当に尊敬する農家のお一人、この方は私の農業の師匠でもある方なのですが、その方から言われたことが大変衝撃的だったからでございます。それは、この方が言うには、米子市には農家の声は全く届かん、本当に届かんと言われた一言でございます。その後、地域を回っていても、専業農家、兼業農家、そして、今は農家でない世帯からも、米子の農業を心配する声が本当に数多く聞こえてまいりました。そのため、今回は、農業者として、そして、一人の市民として、そして、市議会議員として、市民全体の利益という視点から、米子市の農業政策について質問いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

では、早速ではありますが、まず初めに伺います。米子市では、食料の安定供給や地域自給力の維持の基本的な認識について、どのようにお考えになっていますでしょうかお聞かせください。

○今城副議長 石田経済部長。

○石田経済部長 食料・農業・農村基本法のとおり、食料は、人間の生命の維持に欠くことのできないものであるといたしまして、将来にわたり良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、国民一人一人がこれ入手できる状態の確保を図らねばならないものでございます。また、食料の安定供給は、世界の食料の需給や貿易が不安定な要素を有していることに鑑みまして、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、安定的な輸入と備蓄の確保を図らなければならないものと認識してございます。あわせて、食料の地域自給力の維持につきましては、地域における農地の確保、担い手農業者の確保、スマート農業技術を活用した生産性の向上が必要不可欠であるとも認識してございます。以上です。

○今城副議長 三木議員。

○三木議員 ありがとうございます。本当にそのとおりであると思います。食べることは生きることです。だからこそ、食料を生産する農業は、市民生活を支える最も基本的な社会基盤であり、地域の持続性、可能性を支える基幹産業であると私は考えています。

農業は、農業者だけのものではありません。市民一人一人の暮らしを支える大切な地域の基盤でもあります。一方で、農業を取り巻く環境は、担い手不足や高齢化、資材価格の高騰、さらには、気候変動の影響などにより年々厳しさを増しております。また、近年は、異常気象、国際情勢の変化を背景に、食料安全保障の重要性がこれ

まで以上に認識されるようになってまいりました。令和6年には、食料・農業・農村基本法が改正されて、食料安全保障の確保が新たな基本理念として明確に位置づけられました。そして、これは、国だけの課題ではありません。このような時代だからこそ、地方自治体においても地域で食料を生産できる力を維持していくこと、それは市民生活を守る上で重要な任務ではないでしょうか。私は今こそ、米子市にとって農業とは何か、市政全体の中で改めて考える時期に来ていると感じております。

そこで、次に伺います。市政としての農業の位置づけについて、どのようにお考えでしょうかお願いいたします。

○今城副議長 石田経済部長。

○石田経済部長 第2次米子市まちづくりビジョンにおきまして、まちづくりの基本目標の一つとしまして、地産外商のまちづくりを掲げ、その基本方向として、次世代につなぐ農業の推進や農業基盤の整備の推進と明確に位置づけてございます。基本的には、多様な担い手の育成、確保、農地の保全と農地集積、農業経営の安定強化、地域計画の推進、農業農村整備事業の推進などを重要政策としているところでございます。以上です。

○今城副議長 三木議員。

○三木議員 ありがとうございます。米子市は多彩で質の高い農産物に恵まれた県内有数の農業地域でございます。私も白ネギで新規就農いたしましたが、特にこの白ネギは全国有数の産地として知られ、本市を代表するブランドの一つであり、多くの農業者の努力によって今日まで、その産地が守られてまいりました。皆様も御承知のとおり、農業は、ほかの産業とは異なり、市場の需要に供給を合

わせることが大変困難な産業です。まず、長期間保管することができません。自然環境に左右されて供給量が大きく変化して、予測が難しい。災害や異常気象で全滅することもあります。かく言う私も去年、1枚、白ネギの畑を全滅まで近いところまで追い詰められて、大変困ったところがあります。災害に備えて多めに作付するということもありますが、その結果、豊作になれば、供給過多になって価格が安くなります。そのため、農業はほかの産業と比べて、価格競争力が本当に極めて極めて低いです。住民の食料生産という極めて重要な産業にもかかわらずです。だからこそ、税金を、公金を投入するのです。これが基本のキでございます。このような状況の中で、全国的に様々な場所で、諸外国と同じように農家の所得補償などの議論も行われつつありますが、まず、ほかの産業とは違う、このような農業の特性と現状をしっかりと理解して、地域で取り組めることはしっかりと取り組んでいくこと、それから、地方で難しい部分については、県政や国政にしっかりと地方から声を上げていくことが重要であると考えます。生産、流通、販売の各現場では様々な努力をしていますが、このことがしっかりと理解されて、解決できないければ、現在のように生産コストを十分に価格に転嫁できない状況は変わることがないと私は考えます。

続いて、財政の視点から本市の農業政策についてお伺いいたします。ここで、通知いたしました資料をお願いいたします。御覧ください。米子市と近隣自治体の令和8年度農林水産業費割合及び農業予算額の比較ということで、この資料は、米子市と近隣自治体について、人口、それから、農業産出額、ごめんなさい、農業産出額は抜いておりましたね、失礼しました。あと、農林水産業費の一般会

計に対する割合、それから、1反当たりの農業予算額、市民1人当たりの農業予算額を松江市、鳥取市、倉吉市、安来市、境港市などと比較した表でございます。まず、この資料の作成に御協力いただきました農林課をはじめ、関係職員の皆様に感謝を申し上げます。もちろん、それぞれの人口規模や財政規模、産業構造は異なりますが、また農林水産業費には、農業だけでなく、林業や水産業に関する経費も含まれております。ちょっと表だと分かりにくいといひますか、言葉で説明するとちょっと分かりにくいですので、傍聴したり、中継を見ていただいている方用にパネルを用意いたしました。見えますか。

こちらは、先ほどの資料の中から、10万以上の市を、松江市、鳥取市と比較して、まず、米子市の農林水産業費の割合を示したものでございます。グラフでございます。こちらによりますと、米子市は、全体の予算額から比べて割合が1.4%でございます。続いて、松江市にしましては2.1%、鳥取市にしましては3%でございます。続きまして、今度は1反当たりの農業予算額を出したものでございます。1反は10アールですね。1,000平米でございます。1,000平米当たり、農業予算額がどのぐらいついでるかというグラフでございますが、こちら、米子市は1反当たりが4万4,489円、1反当たりに直すとですね。それから、松江市は5万5,463円、それから、鳥取市は5万4,144円になります。続きまして、市民1人当たりですね、人口で割ったものでございます。1人当たりの農業予算額というのを出してます。ありがとうございます。合わせていただいてありがとうございます。こちらのほうは、米子市が市民1人当たりの農業予算額8,807円に対しまして、松江市は1

万3,024円、それから、鳥取市に関しましては1万8,514円でございます。先ほども申し上げましたが、それぞれの人口規模、財政状況、産業構造も異なりますので、一概にこの資料だけで自治体の優劣を論じることは適切ではないと思います。しかし、限られた財源の中で、どの分野へどのように予算を配分してるかという点につきましては、それぞれの自治体は何を重視して、どのようなまちづくりを目指しているかという行政の考え方が、その一端が表れるものかと考えています。

そこで伺います。近隣自治体の農林水産業費の割合とほかの自治体との比較を踏まえた予算規模、それから、配分について、米子市ではどのような自己評価をしますでしょうかお答えください。

○今城副議長 石田経済部長。

○石田経済部長 議員がおっしゃいますように、一概に比較することも難しいかとは思いますが、御紹介いただきましたとおり、令和8年度一般会計当初予算に占める割合は1.4%でございます。近隣他市との比較では、一般会計当初予算に占めます農林水産業費の割合、また市民1人当たりの予算額、これは決して高くはないと考えてございますが、片や、農地当たりの予算額は他市と比較いたしましても一定の水準を確保しているものというふうに考えてございます。以上です。

○今城副議長 三木議員。

○三木議員 ありがとうございます。米子市も本当に様々な課題、問題があり、限られた財源の中で、大変だとは思いますが、農業者目線、それから、市民目線で見ると、もう一步、市政として農業に踏み込んでいただけたらなと思うところであります。

続きまして、農業における市単独の事業と予算額について伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

○今城副議長 石田経済部長。

○石田経済部長 令和８年度の単独事業でございますが、こちらは、１７事業ございまして、予算額といたしましては約５，６００万円でございます。主な事業といたしましては、担い手規模拡大促進事業、耕作放棄地再生利用対策事業、農業用排水路浚渫事業補助金などがございます。以上です。

○今城副議長 三木議員。

○三木議員 ありがとうございます。農業は国や県が方針を決めて行う事業が多いと思いますが、米子市も独自の事業を予算の中から１７事業行っているということですね。ありがとうございます。この中でも、耕作放棄地再生利用対策事業というのは、私も実を言うと就農のとき、畑を借りて、耕作放棄地を借りて、再生するときにお世話になったことがあります。これは面積当たりで費用が出るものだったと記憶してますが、このような事業が農業者にとっては本当にありがたいです。特に就農して間もない頃は、潤沢に資金があるわけでもございません。このような耕作放棄地の話が本当に新規就農者によく回ってくるんですね。私は、このような市の単独事業は、国の制度や県の制度では行き届かない、まさに地域密着で、かゆいところに手が届くものだと思います。ぜひ地元の農業者の声を聞きながら、より一層事業の充実を強く強くお願いしたいと思います。

この耕作放棄地の問題、先日では矢倉議員が、そして、３月の定例会ではたしか津田議員さん、それから、大下議員さん、伊藤議員

さんも、そして、これまでも多くの議員の方々が質問してくださっています。その中で、基盤整備を進めて、耕作放棄地に取り組むという答弁があったと記憶していますが、これも、少し現場の考え方と実を言うはずれがございます。基盤整備とは、農地をより効率的に利用できるように、圃場や水路、そして、農道などを整備することでございます。もちろん基盤整備は農業にとって非常に重要でございますが、本当に現場が耕作放棄地の問題で困っているのは、様々な理由で、この基盤整備が届かないといいますか、もしくは、基盤整備のときに残ってしまった農地でございます。この話が出るたびに、本当に私は全ての畑が基盤の目のようにきれいにそろって、四角い土地であつたら楽なのになと思うのですが、実際の農地はそうではありません。大きな機械が入れなかったり、狭かったり、小さかったりする農地、真四角ではない農地、住宅に囲まれて変形している農地など、効率的に利用をできない農地が多数存在します。その農地は、これまで地域の小さな農家さんが手をかけて守っていました。地域の担い手となってる大きな農家さんも、このような方々ができなくなったときに、じゃあ、わしらがやろうかと一生懸命やったださっているんですが、その地域の担い手さんですら、ちょっともう限界だという声が多くあります。なので、この大きな農家さんたちの意見を伺いますと、わしらよりも小規模の農家さんをしっかり支援しないと、この問題、絶対なくなるよと、もう誰もが口をそろえて言います。私は、この問題にもしっかりと市が取り組んでいかなければならない問題だと考えています。この後も岡田議員さんのほうがこの質問、耕作放棄地について質問されると思いますが、私のほうは通告はしておりませんので、また日を改め

て質問させていただけたらと思います。

ここで、農業が持つもう一つの大切な価値についてお伺いしたいと思います。それは、農業が持つ多面的機能についてです。こちらも、何度も議会では質問されてる事項だとは思いますが、再度質問させていただきます。農業の持つ大切な価値である多面的機能というのは、どのようなものでしょうかお願いいたします。

○今城副議長 石田経済部長。

○石田経済部長 農業の持つ多面的機能とは、洪水防止をはじめとした国土の保全、地下水の涵養、自然環境の保全、良好な景観形成、文化の伝承など、農村で農業生産活動が行われることにより生じます食料、その他の農産物の供給機能以外の多面にわたる機能のことを指してございます。農業の持つ多面的機能は、国民の生活や経済に寄与する極めて重要な機能というふうに考えてございます。以上です。

○今城副議長 三木議員。

○三木議員 ありがとうございます。米子市の農地は市民に安全・安心な食料を届けるだけではなく、私たちの暮らしを支える様々な役割を担っています。今おっしゃられたとおり、大雨のときには、雨水を一時的に貯留して、水害を軽減する役割があります。地下に水を浸透させて、地下水を育む役割もございます。景観を守り、多様な生き物が暮らす環境を維持しています。また、農道や水路は地域住民が協力しながら維持、管理され、地域コミュニティを支える役割も果たしております。ちょっと古いデータではございますが、平成12年ですね、農林水産大臣から委託を受けたといひますか、

諮問された日本学術会議が、この多面的機能について評価を行った事例がございます。その結果、その公益的価値は、これは森林も含めての数字で、全国的な価値でございますが、全国で年間、約 8 兆円に上るとの試算が示されております。この数字が示すものは、ふだん評価されない価値であっても、市民一人一人が毎日、その恩恵を受けているという事実でございます。私は、農業は農業者だけのものではなく、市民全体の暮らしを支える極めて公共性の高い地域資源であると考えています。

米子市におきましても、農業の多面的機能については、一定の評価はいただいていると思いますが、改めてお伺いいたします。このような農業の多面的機能や公益的な価値を市政運営の中でどのように評価しておられるでしょうか、お考えをお聞かせください。

○今城副議長 石田経済部長。

○石田経済部長 農業は、安心・安全な食料を供給するだけではなく、自然環境の保全や水源涵養などの多面的な機能を有しております。その価値は市民の生活の安心・安全に重要なものであると考えてございます。そのため、第 2 次米子市まちづくりビジョンにおきまして、次世代につなぐ農業の推進の中に、多面的機能の維持、発揮を重要な施策として位置づけまして、その取組を現在推進しているところでございます。以上です。

○今城副議長 三木議員。

○三木議員 ありがとうございます。本当にそのとおりだと思います。だからこそ、米子市の農業を守るべき産業としてだけでなく、未来へ引き継ぐべき地域資源、資産として位置づけていただいていると思います。今の御答弁を伺い、私はそのように理解いたしまし

た。

農業は市民の食を支えています。地域経済を支えています。災害に強い地域づくりにも貢献しています。豊かな景観を育み、次の世代へ地域を引き継ぐ土台でもあります。だからこそ、私は農業への支出は、単なる産業振興だけのためだけの支出ではないと考えています。市民の命と暮らしを守ること、地域経済、環境、そして、未来の子どもたちへ豊かな米子を引き継ぐための投資であります。行政の経営において重要なのは、ちょっと私が言うのもすみません、まだ勉強不足でおこがましいのですが、幾ら支出したかだけではなく、その支出によって何を守って、何を未来へ残すのかという視点ではないでしょうか。伊木市長は、会計、財政の専門家でもありとお聞きしております。だからこそ、このような視点を大切にされているものと考えております。

そこで、最後に、市長にお伺いいたします。市長は、農業が市民を支える重要な地域資産であり、未来への投資でもあるとの認識の下、本市の重要な政策分野の一つとして今後も農業政策をしっかりと推進していくお考えはありますでしょうかお願いいたします。

○今城副議長 伊木市長。

○伊木市長 三木議員御指摘のとおり、農地、あるいは農業というのは、我々にとりまして大変大切な産業であり、資産であると、そのように考えてございます。そういう意味では、私も農業につきましては基幹産業という位置づけを取っておりますし、その発展は大変、本市の未来にとりましても重要なものだということで、力を入れてきているつもりでございます。御指摘の中にもございましたけれども、本市の農業の様々な課題があるんですけれども、特に目に

ついた課題というのは、殊にこれは弓浜地区に多いんですけれども、いわゆる耕作放棄地の問題でございます。これは、三木議員が御指摘される資産と呼ぶにはふさわしくない、つまりせっかくの資産が不良資産化してしまっている、そういうものだというふうに認識しております。したがって、できる限り耕作放棄地の解消というものを進めることが本市の農業にとりまして重要であるということで、一生懸命進めてまいりました。もちろん難しいこともたくさんございまして、農地の所有者の方の了解が得られるところからまず始めるということですし、それから、出口ですね、つまり担い手が見つかるということも一つ大切なことでございます。そうした中で、例えば基盤整備と同時に、淀江や皆生、あるいは富益など、そうしたところでは基盤整備も含めて、耕作放棄地対策というものをしてきたところでございます。そして、本市の農業につきましては、単に農産物の生産にとどまらず、農地の保全と地球環境の維持や防災、減災などの多面的機能の発揮、これは先ほども答弁させていただきましたが、さらには、地域コミュニティの維持や景観形成など、本市のまちづくりを支える重要な地域資源であると認識をしております。また、将来にわたりまして維持、発展させていくこと、これにつきましては、議員御指摘のとおり、地域経済や次世代への地域資源の承継につながるものでございまして、本市の未来に向けての重要な施策であると、そのように考えてございます。そういう意味で、引き続き、担い手の確保や育成、それから、農地の有効活用、それから、地域の特色を生かした農業振興に取り組み、そして、農業を地域のかげがえのない資源として次世代へ引き継いでいきますとともに、本市の重要な政策分野として、営農を希望する農業者

の声を伺いながら、推進してまいりたいと考えております。

○今城副議長 三木議員。

○三木議員 ありがとうございます。本当に力強い明快な御答弁をいただきました。ありがとうございます。

私は13年前、この米子で農業を始めました。本当に多くの皆様に支えられながら、今日まで農業を続けてくることができました。冒頭に述べましたとおりです。農業者として現場で感じてきたこと、それから、市民として暮らしの中で感じてきたこと、その両方を大切にしながら、これからも現場の声を市政に届けてまいります。農業を守ることは地域を守ることでございます。農業は、地域の方々が先祖代々受け継いでいき、守ってきた地域の財産でございます。市長をはじめ、行政の皆様とこの思いを共有しながら、よりよい米子市を築いていけることを願い、私の初めての一般質問を終わります。ありがとうございます。